

# とうもろこし（サイレージ用）「TH1525」

## 1 特性の概要

### (1) 来歴

フランスのエンアース社が育成した単交配（デント×デント、構成系統は不明）品種である。平成 25 年に OECD 登録されている。

平成 27 年にタキイ種苗株式会社が導入し、平成 28 年に予備検定試験を行った。平成 29 年から飼料作物品種比較試験により、地域における適応性が検討された。

品種比較試験は平成 29～令和元年に北農研で 3 年間実施し、平成 30～令和元年にはタキイ種苗（株）が恵庭市準現地試験を行った。また、北農研において、平成 28～29 年にすす紋病抵抗性、平成 29～30 年にごま葉枯病抵抗性に関する特性検定試験を実施した。

### (2) 特性（標準品種「36B08」と比較）

- 1) 早晚性：絹糸抽出期は 2 日遅い（表 1）。乾物率はやや高い（表 2）。早晚性は“中生の晩”に属する。
- 2) 耐倒伏性：強い（表 1）。
- 3) 発芽・初期生育：発芽期は 1 日早く、初期生育は良好（表 1）。
- 4) 収量性・乾物特性：乾物総重、推定 TDN 収量はほぼ同等。乾雌穂重割合はやや高く、乾物中推定 TDN 割合はほぼ同等（表 2）。
- 5) 形態特性：稈長、着雌穂高は高い（表 1）。
- 6) 耐病性： 特性検定試験におけるすす紋病抵抗性は「強」（表 3）で、試験場所における発生も「極強」の「36B08」とほぼ同等だった（表 1）。ごま葉枯病抵抗性は「36B08」および「北交 65 号」と同等（表 3）とされた。根腐病の発生はなかったが、黒穂病はわずかに見られた（表 1）。

表1 生育特性

場所	品種名	発芽期 (月日)	初期生育 <sup>1)</sup> (月日)	絹糸抽出期 (月日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	倒伏・折損 <sup>2)</sup>		すす紋病 <sup>3)</sup>	ごま葉枯病 <sup>3)</sup>	根腐病 <sup>4)</sup> (%)	黒穂病 (%)	収穫時熟度	有効雌穂割合 (%)
							倒伏	折損						
＜普及対象地域＞														
北農研 (2カ年)	TH1525	5/25	5.8	8/03	255	124	100.0	0.0	1.2	1.0	0.0	0.9	黄初-黄中	102.5
	36B08	5/26	5.0	8/01	226	112	100.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	黄初-黄中	99.2
タキイ恵庭 (2カ年)	TH1525	5/23	5.7	8/07	230	88	29.0	0.4	1.4	1.1	0.0	0.4	糊後	100.0
	36B08	5/24	5.1	8/06	201	83	45.5	0.2	1.1	1.0	0.6	0.2	糊後	100.0
総平均	TH1525	5/24	5.7	8/05	242	106	64.5	0.2	1.3	1.0	0.0	0.6	糊後-黄初	101.3
	36B08	5/25	5.1	8/03	213	97	72.7	0.1	1.1	1.0	0.3	0.1	黄初	99.6

1) 1: 極不良～9: 極良 2) 収穫前調査「TH1525」、「36B08」の少なくとも一方に倒伏または折損が発生した年次、場所の平均値。

3) 収穫前調査 飼料作物系統適応性試験実施要領の判定基準(1: 無～9: 甚)による。平成30年の北農研は全倒伏により未調査。

4) 収穫直前の発生個体率。

5) 北農研は3カ年(平成29～令和元年)の実施であるが、3年目は発芽不良のため参考扱いとして本表に含めない。

表2 収量特性

場所	品種名	10a当たり収量(kg/10a)								乾物率(%)			乾雌穂 重割合 (%)	乾物中 推定TDN (%)
		生総重	同左比		乾物			同左比 推定 TDN <sup>1)</sup>	同左比 (%)	茎葉	雌穂	総体		
			(%)	茎葉	雌穂	総体	(%)							
<普及対象地域>														
北農研	TH1525	6359	99	917	1209	2127	101	1562	102	21.8	57.0	33.5	56.7	73.4
(2カ年)	36B08	6402	100	967	1134	2101	100	1527	100	22.5	54.2	32.8	53.7	72.6
タキイ恵庭	TH1525	5506	94	782	798	1580	97	1134	97	20.3	49.2	28.6	49.8	71.6
(2カ年)	36B08	5859	100	847	789	1636	100	1164	100	20.5	47.6	28.0	48.0	71.1
総平均	TH1525	5932	97	849	1004	1853	99	1348	100	21.0	53.1	31.1	53.3	72.5
	36B08	6131	100	907	961	1869	100	1345	100	21.5	50.9	30.4	50.8	71.8

1) 推定TDN収量は新得方式(推定TDN収量=乾物茎葉重×0.582+乾物雌穂重×0.85)により算出。

2) 北農研は3カ年(平成29～令和元年)の実施であるが、3年目は発芽不良のため参考扱いとして本表に含めない。

表3 病害抵抗性試験に関する特性検定試験結果(北農研)

品種名	すす紋病(1:無～9:甚) <sup>1)</sup>						ごま葉枯病(1:無～9:甚) <sup>2)</sup>		
	H28 8/25	判定	H29 9/6	判定	平均	判定	H29 9/29	H30 9/21	平均
TH1525	3.8	かなり強	4.8	中	4.3	強	3.3	3.0	3.2
36B08	3.5	極強	3.3	極強	3.4	極強	3.0	2.3	2.7
キタユタカ <sup>3)</sup>	7.0	弱	7.7	弱	7.4	弱			
北交65号							3.0	3.0	3.0

1) すす紋病は検定系統畦に隣接して、罹病葉粉砕懸濁液を接種した感染源系統畦を片側配置。

2) ごま葉枯病は検定系統に罹病葉粉砕懸濁液を直接接種。

3) 中生品種におけるすす紋病抵抗性“弱”の基準品種

### (3) 長所及び短所

長所はすす紋病抵抗性が「強」であること。耐倒伏性が強いこと。短所はなし。

### (4) 用途

サイレージ用

## 2 候補理由

とうもろこしサイレージは高栄養自給粗飼料として高く評価されており、輸入穀物価格高騰の情勢に対応し、飼料自給率の向上を図る必要があることから、その重要性が増している。

「TH1525」の早晚性は“中生の晩”に属し、標準品種「36B08」と同程度の乾物収量および推定TDN収量があり、耐倒伏性が強く、すす紋病抵抗性も「強」であることから、普及対象地域において良質サイレージ原料の安定栽培と生産性向上への貢献が期待できる。

## 3 普及

### (1) 栽培適地

道央（北部を除く）及び道南地域

### (2) 普及見込み面積

1,600ha（道内作付総面積55,500ha、2.9%）

### (3) 北海道農業試験会議（成績会議）における判定

普及奨励事項

#### 4 その他特記事項

市販種子の供給開始は令和3年春を予定している。

#### 5 参考データ

(参考) すず紋病抵抗性判定の仕組み

判定	抵抗性の程度	説明
極弱	基準品種以下	候補に選定しない
弱	基準品種並	候補として選定できるが、すず紋病抵抗性の低さが欠点として挙げられる
中	基準品種より高く、普及品種としては一般的	候補として選定できる
強	普及品種のなかでも抵抗性が高い	候補として選定でき、すず紋病抵抗性の高さが利点として挙げられる
極強	とくに抵抗性が高い	候補として選定でき、すず紋病抵抗性の高さが利点として挙げられる

(写真)

とうもろこし（サイレージ用）「TH1525」



「TH1525」の草姿



「TH1525」の雌穂